

平成 21 年 10 月 6 日

地震防災研究を踏まえた退避行動等に関する作業部会の
今後の作業に関する依頼（案）

本作業部会の今後の検討事項（資料 1）に関して、下記の通り各委員にお伺いの発出をさせていただく予定です。

記

1. 提出方法：別添 1 の質問事項につきまして別添 2 の様式でご提出下さい。
（事務局の小林宛（m-kbys@mext.go.jp）メールでご送付下さい）
2. 提出期限：平成 21 年 10 月 30 日（金）17 時

以上

【お問い合わせ先】

文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室

富田、小林

TEL：03-5253-4111（内線：4134）

【質問事項】**(1) 定性的判断基準の定量化 (資料 1 の 2. (2) に対応)****① 居る場所の状況 (環境条件) の定量的把握 (別紙 2)**

(1) その場所の適切な退避行動を考える上で、その場所の環境条件として把握しておくべき事項について必要なものがありましたらご指摘ください。

(2) ある環境条件について、それが「PERIL (危険)」となり得る基準 (PERIL の発効基準) の定量化手法についてご教示ください。(併せて、阪神・淡路大震災等で参考となる事例等がありましたらご教示ください)

② 震動による環境の変化の把握

「PERIL (危険)」及び「人が体験する困難な状況」について、**資料 1** で提案した手法の妥当性 及び より適切な手法についてご教示ください。

③ 震動による人間の行動についての把握

揺れの大きさに応じて人はどのような行動ができるか定量的に把握できる手法について、良案がありましたらご教示ください。(人の行動可否確認：歩行可能か、立位を維持可能か、伏せるしかないか、緊急地震速報にどのような効果があるか等)

(2) 定量化が困難な項目の研究課題化 (資料 1 の 2. (3) に対応)

既存の成果では定量化が困難な項目について、どのような研究を行えば定量化が可能か、良案がありましたらご教示ください。(次年度以降への課題等)

(3) 「具体的対応行動」の優先順位の検討 (資料 1 の 2. (4) に対応)

別紙 2 の人が体験する困難な状況、行動目的、条件・状況 (事前対策の有無、本震が来るまでの時間等) に応じて、「具体的対応行動」の優先順位が変化しますが、優先順位決定に至るフローの構造について、理想的な事例がありましたらご紹介ください。

(4) その他

その他、お気づきの点等ございましたらお書き下さい。

【様式】

質問事項		ご回答欄
(1) 定性的判断基準の定量化	① 居る場所の状況（環境）の定量的把握	(1)
	② 震動による環境の変化の把握	(2)
	③ 震動による人間の行動についての把握	
(2) 定量化が困難な項目の研究課題化		
(3) 「具体的対応行動」の優先順位の検討		
(4) その他		